

<研究名称>

A 病棟の看護師が感じる終末期がん患者の療養場所決定に関する意思決定支援の困難感と対処方法

<実施責任者>

看護部 蟹谷 和子

<研究期間>

倫理審査委員会承認後～2020年3月30日

<研究の目的・意義>

A 病棟では、血液疾患の患者に対して化学療法や造血幹細胞移植を中心に、積極的な治療を行っている。しかし、治療の効なく、終末期看護へ移行する方も多くいる。最期は自宅療養を希望していても病状が悪化してしまい自宅へ帰ることが出来ずに病院で亡くなる方や、他院の緩和ケア病棟へ転院する事もある。このように、終末期医療へ移行せざるを得なくなってしまった患者に対し、最期の療養先の希望を確認する際、タイミングや患者の精神的負担に配慮した話し方に難しさを感じたり、その人らしい最期を整えることへの困難感を抱くことが多いと感じる。また、A 病棟で治療を受ける患者は、市外に住んでいる者が 45%いるため、最期の療養先を地元で過ごしたいと希望したり、自分の子供が住んでいる地域での療養を希望する事もある。A 病棟で治療を受けている患者が終末期を迎え、最期の療養先をどこにするか、その選択肢を提供する相手や時期にも困難さを感じる。特に、家族の希望などで、本人へ病状告知がされていない場合、最期をどの様に過ごしたいか等について本人に確認できないため、情報提供もできず、もどかしさを感じることもある。先行研究では、終末期がん患者の在宅以外の療養先も含めた、最期の過ごし方に関する意思決定支援場面で、看護師が感じる困難感やその対処方法を明らかにした研究も存在しなかった。

そこで本研究では、A 病棟の看護師が感じる終末期がん患者の療養先の意思決定支援場面での困難感とその対処方法について明らかにする事を目的とした。

<実施内容（方法）等>

- ・研究方法：質的内容分析
- ・面接は1対1の対面で行い、面接内容を手記およびICレコーダーに録音して記録をする。
- ・記録された面接内容は研究データとして使用する。研究以外の目的で使用する事はしない。
- ・面接時間は1人30分を予定。
- ・面接人数はA病棟の看護師7人程度を予定。

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 7階きた病棟 看護師長 蟹谷 和子

実施担当者 7階きた病棟 看護師 佐藤 静香、森岡 詩織、奥村 杏春、
石道 佳代子

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 看護部 蟹谷 和子

TEL 0166-22-8111 FAX 0166-24-4648